

『一心千里』

走って見れば、
見えてくる

永田 隆一



第73回

世界の半導体市場は40兆円、液晶は13兆円、太陽光パネルは5兆円。日本企業は過去、それなりに重要なポジションを占め、キーテクノロジを

提供する役割を担ってまいりました。医療機器という市場は50兆円まで成長しており

日本が目指す成長戦略と医療機器市場という機会

バス、東芝の3社のみ。他の産業と比較して、あまりにもお粗末であります。

場規模は2・7兆円。治療機器(カテーテル、ペースメーカー)が53%、診断機器(内視鏡、CT、MRI)が26%、そして治療機器は圧倒的に輸入比率(60%以上)が高いのであります。

ただし、完成品に使用される半導体、ポンプ、ベアリングなど、日本企業は部品レベルでは大いに活躍しているという側面

もござります。少子高齢化が世界で一番進んでいる日本。自動車、エレクトロニクスという産業で確固たるポジションを握り、技術の蓄積という財産を有する日本。しかしながら、医療機器という市場で大きな遅れを取っている日本。原因は、日本の省庁の

縦割りの弊害が一つ。厚生労働省の薬事法(医薬品・医療機器法)による規制。お医者さん・医療研究機関におけるマーケティングという考え方の欠如などが代表的なものではないかと筆者は考えます。

筆者は毎年2回は献血をします。いつも400ccです。最近、成分献血という方法がポピュラー

です。血小板や血漿のみを採取して、赤血球などを再び体内に戻す方法です。筆者も勧められますが、成分献血はいたしません。

半導体のように不純物を10の10乗以下に抑える業界から見ますと、医療機器(チューブ、針、種々のフィルター)の不純物濃度は軽く10000倍を超えています。不純物が一緒に血管へ戻されるリスクがあるからです。尋ねても、どなたも筆者を説得できるデータをお持ちではありません。

医療機器開発に従事している方によりますと、開発チームのリーダーのお医者さんがプロジェクトを引っ張ります。そして、できあがった医療機

器はそのリーダーの医療機関に納品されます。1億円を軽く超える金額です。しかし、2台目以降の注文は来ませんし、さらに、注文を取るための努力をする組織も存在いたしません。よくあるケースとのことであります。

2001年、アップル社にトニー・ファデルというコンサルタントが「iPod」のアイデアを売り込みに訪問。アップルはトニーを事業責任者に任命し、デザインとインターフェースはアップルが握るが、それ以外

は外部調達でよいと方針を出します。トニーは外部から35人のプロを採用。「iTunes」も

政府は、14年11月に薬事法を改定しました。規制の緩和が目的です。15年4月に「日本医療研究開発機構」を発足しました。文部科学省、厚生労働省、経済産業省からなる横串の組織です。1200億円の予算もつけました。筆者は大いに期待いたします。

開発とは、その機器がたかさんの人たちの役に立つってもらうこと、楽しんでもらうこと、儲けていただくことでもあります。開発を助けるためのコンセプトや技術は、外部にすでに存在していることがよくあります。外部の有効活用がカギであります。

毎月連載

医療機器メーカーの売上ランキング (2013年、単位:億ドル)

1	ジョンソン&ジョンソン	(米)	264.9
2	シーメンス	(独)	184.2
3	GE	(米)	182.1
4	メトロニック	(米)	165.9
5	バクスター	(米)	152.6
6	フィリップス	(蘭)	131.8
7	コヴィディエン	(米)	102.4
8	カーディナル	(米)	100.6
...
21	テルモ	(日)	45.5
22	スミス ネフュー	(英)	43.5
23	オリンパス	(日)	41.9
24	ホスピール	(米)	40.1
25	東芝	(日)	39.8
...
30	CRバート	(米)	30.5

(出典: MPO Magazine)